

大空への鎮魂

第30号 令和2年(2020)7月20日 付録「育ちゆく學鷲」

特定非営利活動法人
旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会
発行者 臼田 智子
ホームページ
<http://www.okegawa-hiko.org>

平成28年から開始された桶川飛行学校の復元工事が完了しました。正門前からの写真です。建物の設置管理条例が昨年12月議会で成立し、今年8月4日から公開されます。建物解体の復元工事が始まってから、桶川市から本会へのコンタクトはないため、建物の内部や展示内容も明らかではありません。よって、本会会員には、見学するにあたり、その歴史を過去の会報掲載の内容も含めて解説しておきたいと思います。基本的に文化財としての建物の展示がメインのようで、本会が掌握している歴史的資料によるストーリー展開はないものと思われます。



復元後建物等の全景
*裏表紙の建物構成CG参照



守衛所棟と正門



兵舎・下士官室・医務室棟



車庫棟



便所棟

【操縦飛行兵養成学校】

埼玉県桶川市川田谷(当時「川田谷村」)の一級河川・荒川の左岸、河川敷を見下ろす高台には、2016年(平28)4月まで、旧陸軍の熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡が残っていました。守衛所、車庫、宿舍兼下士官室棟(本部兵舎)、便所の木造4棟と弾薬庫が残り、建築後80年を経て老朽化が進んだため、桶川市が2か年をかけて復元工事を行っています。

桶川分教場は、1935年(昭10)12月に開校した熊谷陸軍飛行学校初期の4分教場のひとつとして、1937年(昭12)6月開校しました。



特操1期の操縦訓練(昭18冬)

陸軍の他の兵科から試験に合格してきた下士官操縦学生の基本操縦教育を行っていましたが、1943年(昭18)4月からは、少年飛行兵(少飛)12期、学徒出陣の特別操縦見習士官(特操)1期、少飛15期、特操2期、同3期、少飛16、17期などの操縦教育を行いました。

*輩出した飛行兵の数については、今まで1,500~1,600名と公表していましたが、その後再調査中ですが、現時点では1,500人未満ではなかったかと思われます。

【特別攻撃隊の訓練基地】

戦況がひっ迫してきた1945年(昭20)2月、熊谷陸軍飛行学校は廃止、桶川教育隊としての



第79振武隊の見送り(昭20.4.5)

機能は北海道に移されて、桶川は特別攻撃隊の訓練基地となりました。

各地で編成された数個の特攻隊が2、3週間の単位で訪れ、特別攻撃(特攻)の訓練を行っていました。このうち、99式高等練習機で編成された第79振武隊が同年4月5日、95式中間練習機(通称「赤とんぼ」)で編成された第94振武隊が6月初め、いずれも九州鹿児島県の知覧基地(特攻出撃基地)に向けて出発したことが判明しています。第79振武隊12機の後部座席には整備の下士官1名と整備員5名が途中の小月飛行場(下関市)まで同乗して行き、隊員は4月16日、知覧から沖縄の海に向け出撃し(うち1名は22日再出撃)、11名が戦死しています。同隊は練習機で編成された初めての特攻隊といわれます。一方、羽布張り胴体の赤とんぼによる第94振武隊は途中散り散りになり、2機が島根県小野村(現益田市)の海岸に不時着して住民の歓待と激励を受けたのち、九州に向かったことが当時の隊員と不時着を目撃した住民により明らかになっています。

【地元で支えた飛行学校】

飛行学校の学生、生徒の多くは厳しい試験を



地元から雇用された整備員たち

経て全国から集まった若者で、1個隊は30名から80名位でしたが、飛行機整備や通信、気象、運転手、賄い人などは地元桶川はじめ近隣の北本、川島、菖蒲、上尾などから採用された軍属や臨時雇いの人たちで、50～60人が働いていました。飛行学校を支えていたのは、地元の人たちだったのです。

そして、特別攻撃隊も隊員たちは訓練途中の未熟な飛行兵で、火器（銃砲）を装備していない練習機をあちこちから12機かき集め、地元のペンキ職人の手を借りて胴体を戦闘機色に塗り替え、尾翼に部隊の標識を描き、決死の覚悟で

出撃基地九州に向かった、いわば手作りの特攻隊ともいえるべきことが明らかになっています。

それは、先の戦争が、単なる中央の「歴史」として教科書等で後世まで語られるだけのものではなく、私たちとその父母、祖父母の生活と地続きの出来事でもあることを物語るものです。

【戦争遺跡】

分教場建物は戦後、床を張り住宅困窮者の住居として2007年（平19）まで使われていたため、事実上温存されてきました。

全国にかろうじて残存する戦争遺跡の多くは、地下に造った司令部跡や戦闘指揮所跡、飛行機の避難所である掩体壕、軍事施設の門柱など、堅牢なものが多く、桶川分教場のように、一般の兵が日常を過ごした施設、まして、木造の建物群が残存していた例は極めて珍しいことで、それだけに、地元住民とのかかわりのエピソードや特攻隊員最後の手記、手紙なども残されています。

【遺構の所在と復元まで】

所 在 埼玉県桶川市大字川田谷字若宮 2335 番地 16 ほか 12 筆

敷地面積(現状) 9,552.80㎡

構 築 物 ①守衛所 ②車庫 ③宿舍兼下士官室棟（本部兵舎）
④便所 ⑤弾薬庫 *2016年5月⑤を除き解体

建 築 年 1937年（昭12）3月ごろ 1943年（昭18）秋 裏の講堂建築と兵舎棟の教室等増築

戦後の扱い 2007年（平19）3月まで住宅困窮者の住居として使用
2016年（平28）2月桶川市指定有形文化財

所 有 桶川市

建物復元 2020年（令2）3月

【入校した学生生徒、飛行学校の廃止と特攻隊訓練基地】（本会調べ）

- ・開校 昭和12年6月3日開校式典 *昭和15年5月19日 開校3周年記念式典挙行
- ・昭和12年6月～昭和12年9月 下士官操縦学生第67期

- 昭和 12 年 10 月～昭和 13 年 3 月 下士官操縦学生第 69 期
- 昭和 13 年 4 月～昭和 13 年 7 月 下士官操縦学生第 73 期
- 昭和 13 年 8 月～昭和 13 年 11 月 下士官操縦学生第 75 期 55 名 後期は熊谷本校
- 昭和 13 年 12 月～昭和 14 年 4 月 下士官操縦学生第 77 期
- 昭和 14 年 4 月～昭和 14 年 8 月 下士官操縦学生第 79 期？
- 昭和 14 年 9 月～昭和 15 年 1 月 下士官操縦学生第 81 期前期
- 昭和 15 年 2 月～昭和 15 年 6 月 下士官操縦学生第 81 期後期(偵察)学生
*昭和 15 年 2 月 1 日木造の格納庫落成式
- 昭和 15 年 7 月～昭和 16 年 5 月(前後期、後期は 15 年 12 月入校)下士官操縦学生第 84 期
*56 名本校で終業式
- 昭和 16 年 1 月～昭和 16 年 10 月 下士官操縦学生第 86 期 前期・後期
- 昭和 16 年 8 月～昭和 16 年 12 月 下士官操縦学生第 87 期 12 名。12 月 24 日前期終了
- 昭和 17 年 1 月～昭和 17 年 5 月 下士官操縦学生第 89 期
- 昭和 17 年 6 月～昭和 18 年 3 月 下士官操縦学生第 90 期 38 名(前期・後期)
- 昭和 18 年 4 月～昭和 18 年 9 月 少年飛行兵第 12 期 卒業 40 人(入校 60 人)
- 昭和 18 年 10 月～昭和 19 年 3 月 特別操縦見習士官第 1 期 87 名(卒業 71)
- 昭和 19 年 4 月～昭和 19 年 7 月 少年飛行兵第 15 期 70 名
- 昭和 19 年 7 月～昭和 19 年 9 月 特別操縦見習士官第 2 期(教官要員) 約 40 名
- 昭和 19 年 10 月初～昭和 19 年 10 月末 少年飛行兵第 16 期 50 人、16 期は 10 月末松本教育隊に展開(転出)。



昭和 14 年 6 月 学校幹部と雇員たち。
中央は櫻井晴一分教場長

昭和 19 年 10 月～昭和 20 年 2 月 特別操縦見習士官第 3 期が岩手教育隊と軽井沢教育隊から 10 月 26 日 90 名入校 12 月一部卒業

昭和 20 年 2 月以降、少年飛行兵第 17 期(整備)が所沢陸軍整備学校の閉鎖に伴い各部隊に分散配置され、桶川にも 10 名程度(氏名判明)駐留。熊谷陸軍飛行学校は、昭和 20 年 2 月 20 日廃止。第 52 航空師団第 6 練習飛行隊(秘匿名称「紺第 540 部隊」)に改編され、特攻攻撃の訓練を開始。

桶川教育隊の一部は 5 月、札幌の民間飛行場(現・丘珠飛行場近くの北海タイムス社飛行場)に移転。昭和 20 年 3 月以降は桶川も特攻の訓練基地となる。

4 月 5 日、第 79 飛行隊が進発(隊長山田信義少尉)。4 月 16 日知覧から第 79 振武隊として出撃。以後、第 94 振武隊(隊長藤田一慶少尉)、第 326 隊、第 327 飛行隊など、4 個隊以上の特攻待機部隊の駐留が判明している。通称は「神兵隊」[神鷲隊]「天佑隊」(327 隊)、「回天隊」など。94 振武隊は中練(通称「赤とんぼ」)で 6 月初め進発し、熊本で終戦を迎えた。開校時「分教場」と呼んでいたが、昭和 15 年に「分教所」とされた。18 年からは「桶川教育隊」となったが、20 年 2 月からの正式名称は不明。

(注)・昭和 17 年までに入校していた下士官操縦学生については、関係者からの聞き取りや、当時の卒業写真、日誌と全国の飛行兵の種別ごとの入隊・卒業年次を照合し推測したもの。



1945年(昭和20年)当時の建物構成
2016年(平成28年)現存建物(緑文字)

CG制作 EVIN

左のCGは本会制作のもので、昭和 18 年秋の増築後の建物構成です。

解説DVDと絵葉書を販売中

①歴史解説(動画)②特攻隊出発の解説(紙芝居)

③解体前の建物写真

DVD送料込 1,000 円 振込先

桶川郵便局 00120-8-297950

旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会

[発行]

特定非営利活動法人

旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会

(法人住所) 桶川市西 2-4-2 1

会員約 100 名 会報 200 部発行

[事務局] *お手紙は事務局に

〒350-0133

埼玉県比企郡川島町表 403 (鈴木)

電話(携帯)090-2554-7429